第５回地域計画検討小委員会（防災関係）議事録

記録：令和３年８月２５日
記録者：柘植 栄子（補助：内藤 恭）

開催日時：令和３年８月２４日（火）　１３時３０分～１５時００分
会場　　：きずな会館 集会室
出席者　：前川 勉、内藤 恭、野間 保正、中川 等、田中 眞、柘植 栄子、杉浦 茂樹
欠席者　：深尾 睦世、浅岡 日出夫、祖父江 祐介、神谷 和夫
資料　　：① 防災に対する現状の問題点・課題及びその対策
　　② 10 年後の吉浜を目指して

議事要約

１．事務局・進行役からのアドバイス

前川 勉地域計画策定事務局からのアドバイス
・地域計画は年内に全体計画として素案まとめ（計画と到達できるレベル）
・９月２１日（火）に第２回中間報告、第３回は１２月
・令和４年４月より試行
・行政がまとめている総合計画とのすり合わせが必要（行政からのサポートと地域の役割）

深尾 睦世進行役からのメールによるアドバイス
・行政は「可視化」「数値化」をうたう事が多いです。本計画上で目標を数値化できそうな事業案のゴールを数値目標みたいに設定したら如何でしょうか。
例えば、災害時における女性相談員などの人材育成数や、防災訓練参加世帯数の目標数等具体的な数字を決めるのではなくても、（数値目標を設定する）とだけ計画にのせておく事を提案させて貰います。

２．更なる問題点の洗い出し（フリートーク）

資料「１０年後の吉浜を目指して」に記載してある問題点と更なる問題点・課題を議論

① 備品について
・近年温暖化の影響か、豪雨による土地・家屋の浸水が全国的に目立つようになってきた。
ゴムボートによる救助・避難している状況をＴＶ等で観る。
吉浜地区において、新田町・芳川町も同様な状況に遭遇する恐れがある。以前ゴムボートの導入（購入）を検討したことがあったが、当時高価だったので断念した経緯がある。市なり消防団で用意してもいいのではないか。
・浸水被害に対して、救命胴着（ライフジャケット）を揃えても良いのではないか。
・防災備品について、市・まち協・町内会がそれぞれ保有している。災害時足りない備品を融

通しあうことが必要と考える。
→吉浜まち協では防災備品の一覧表を整備しており、組織の責任者に保管してもらっている。
→一覧表を一部の人が持つのではなく、関係者が全員共有できる仕組み作りが必要ではないか。例えばネットによる防災備品の閲覧ができるようにするなど。

② 防災マップ（ハザードマップ）について
・ＴＶ等で放映されているが、ハザードマップに記載されている危険地域が被害に遭遇している。今後も継続的に危険地域の見直しと住民への周知が必要である。

③ 若い人の参画と継承について
・吉浜の１０年先を見て検討しているが、現在の検討者は１０年先どのようになっているのかわからない。今後若い人に計画に参画してもらい、継続・検証していくことが重要と考える。

④ 防災組織について
・防災組織の見直しが必要ではないか
町内会は役員・理事・班長は毎年代わっていき、防災ノウハウの継承が難しい。
地震発生において安否確認や家屋被害状況調査などは二人体制（例えば新・旧班長によるペアー）を推奨してきたが、現状は現班長のみである。このため、いざという時のために組織が機能しないと思われるため、機能する防災組織の体制作りが必要と考える。
・防災拠点長は理事が担うことが多く、毎年代わる。このため、有事の際に指揮・指示できるか疑問である。

⑤ 防災ノウハウ（研修）について
・防災に関わるノウハウを得る必要があり、研修する機会を計画に盛込んでも良いのではないか

⑥ 私たちの目指すキャッチフレーズについて
これまでの議論のキーワードを整理すると
“ 家庭と地域　つながる見える　みんなの備えが命を救う ”
・・・・前川さん案

３．次回委員会の内容
９月２１日（火）第２回中間報告に向けて、報告資料の確認と修正

４．次回の委員会開催
日程：９月１４日（火）
時間：１３時３０分から１５時（予定）
会場：きずな会館

以上